

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 附属図書館

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	該当なし	達成度： 4 3 2 1
研 究	該当なし	達成度： 4 3 2 1
セ ン タ ー 業 務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生を始めとした利用者の自学自習の環境整備に努める。そのため、利用者との懇談会など幅広い意見を収集する機会や、図書館情報リテラシーの向上を支援する企画を引き続き設け、実施していく。</li> <li>・ 学生用の専門図書など教育のための基盤的資料の整備を行う。</li> <li>・ 平成21年度に策定した「岡山大学における電子リソースの整備方針」等に基づいて、研究基盤の整備・充実を図る。そのため、電子ジャーナルやデータベースの学術情報の持続的な整備を引き続き行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生からの要望を収集するために学生館長懇談会を7月、12月に、全学アンケートを11月～12月に実施(2,858件回収、学生数の20.8%)、無線LANスポットの拡充・図書の予約システム導入など学生の自学自習のための環境整備を行った。また、データベース等講習会の重点実施、学術情報リテラシー読本の改訂、図書館ホームページのリニューアル等学術情報リテラシー向上に努めた。</li> <li>・ 学生用の専門図書は、部局推薦枠を大幅に拡張でき、教員に推薦を募った結果、昨年度比で約2倍の冊数の学習用専門図書を整備できた。</li> <li>・ 電子ジャーナル・データベース等は、図書館学術情報基盤経費の安定化のおかげで、選定WGで平成23年度購読タイトルを決定、さらに英国物理学会(IOP)刊行誌、ワイリー社刊行誌(10誌)などのバックファイル導入、また、学生のための教育用として、CiNiiやJapanKnowledgeなどを導入、さらに、鹿田分館用の医学系雑誌DB、治療法DBの他、医学系電子ブック22タイトルを導入できた。多種多様な学術情報の整備ができた。</li> </ul>
		④ 3 2 1
社 会 貢 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重資料を使った地域の生涯学習や学術成果リポジトリを利用した地域貢献を継続実施していく。</li> <li>・ 本学の教育研究成果の発信を支援するため岡山大学出版会事業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重資料を活用した池田家文庫絵図展を11月に実施し、1430名の入場者があった。また、公開講座「絵図をもって岡山を歩こう」5回シリーズを開催し、計174名の参加があった。さらに、「こども向け後楽園ワークショップ」を教育学部と連携して2回開催し計87名(保護者も含む)の参加があった。</li> <li>・ 出版会の刊行冊数は、19年度1冊から、4冊、6冊、今年度10冊(内4冊は3月納品予定)と増え、収入は6万円、30万円、90万円、今年度見込み150万円と順調に伸びてきた。</li> <li>・ リポジトリ事業でも、システム統合による情報管理の合理化、経費節減、利便性の向上を図り、4千件を超える新規登録、共同リポジトリへの就実大学の参加などコンテンツの充実を図った。</li> </ul>
		達成度： ④ 3 2 1
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度実施したアンケートの結果に基づき、さらに学習環境整備に取り組む。</li> <li>・ 学生用専門図書、電子ジャーナル・データベース等については、図書館学術情報基盤経費の拡充による安定化が図られ、22年度はその執行体制を整えることができた。次年度以降、運営委員会、WGを通じて、教員の意見を十分取り入れ、なお一層の精選を目指す。</li> <li>・ 社会貢献事業は、点検しつつ継承し実績を積み上げ、さらに質・量共に拡充を図る。</li> </ul>		

【達成度】 ④：非常に優れている 3：良好である 2：概ね良好であるが改善の余地あり 1：不十分であり改善を要する  
注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。